定　格

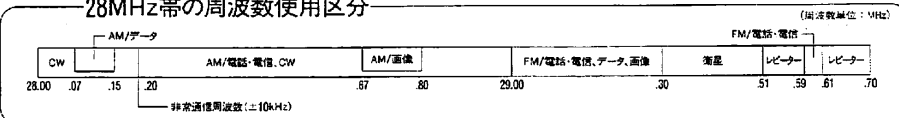
（*：個別の技術基準適合証明番号）

仕様 ＼ モデル			6m FM トランシーバー DR-M06SX	HF FM トランシーバー DR-M03SX
技術基準適合証明番号			KV－－－－（*）	KH－－－－（*）
一般仕様	周波数範囲		50～54MHz	28～29.7MHz
	電波型式		F3（FM）	
	アンテナインピーダンス		50Ω	
	電源電圧		DC13.8V	
	メモリーチャンネル		100チャンネル	
	消費電流	送信	約3.0A	
		受信	約0.6A	
	寸法（突起物なし）		140×40×115（mm）	
	重量		680g	
	ヒューズ定格	本体側	4A	
		電源側	15A×2	
送信部	送信出力	HI	10W	
		LOW	1W	
	変調方式		可変リアクタンス変調	
	最大周波数偏移		±5kHz	±5kHz（±2.5kHz調整可）
	スプリアス発射強度		－60dB以下	－40dB以下
受信部	受信方式		ダブルスーパーヘテロダイン	
	中間周波数		10.7MHz／455kHz	
	受信感度		－16dBμ以下（12dB SINAD）	－12dBμ以下（12dB SINAD）
	選択度		±6kHz以上/-6dB・±15kHz以下/-60dB	±5kHz以上/-6dB・±12.5kHz以下/-60dB
	低周波負荷インピーダンス		8Ω	

JAIA（日本アマチュア無線機器工業会）で定めた測定法で測定したものです。（一部社内測定法を含む。）

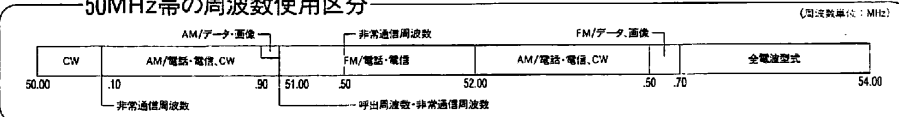
28MHz帯の周波数使用区分

（周波数単位：MHz）

AM/データ　FM/電話・電信
CW　AM/電話・電信、CW　AM/画像　FM/電話・電信、データ、画像　衛星　レピーター　レピーター
28.00　.07　.15　.20　.67　.80　29.00　.30　.51　.59　.61　.70
非常通信周波数（±10kHz）

（注）29.00MHzから29.30MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのAM/電話・電信およびCWによる通信に使用することができる。

50MHz帯の周波数使用区分

（周波数単位：MHz）

AM/データ・画像　非常通信周波数　FM/データ、画像
CW　AM/電話・電信、CW　FM/電話・電信　AM/電話・電信、CW　全電波型式
50.00　.10　.90　51.00　.50　52.00　.50　.70　54.00
非常通信周波数　呼出周波数・非常通信周波数

（注1）50.01MHzの周波数は、JARLのアマチュア局（JA2IGY）のCWによる標識信号の送信を行う場合に限る。（注2）50.00MHzから50.10MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局との**電波によるデータ伝送にも使用することができる。（注3）51.00MHzから51.50MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのAM/電話・電信およびCWによる通信を行うことができる。

ALINCO アルインコ電子株式会社

本社・大阪営業所：〒540 大阪市中央区城見2丁目1番61号ツイン21MIDタワー23階 ☎06-946-8140（代表）
東京・関東営業所：〒103 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 ☎03-3278-5888（代表）
札幌営業所：〒060 札幌市中央区北一条西2丁目1番 札幌時計台ビル4階 ☎011-231-7712（代表）
仙台営業所：〒980 仙台市青葉区一番町4丁目6番1号 仙台第一生命タワービル15階 ☎022-221-8220（代表）
名古屋営業所：〒460 名古屋市中区栄2丁目1番1号 日土地名古屋ビル15階 ☎052-212-0541（代表）
広島営業所：〒730 広島市中区鉄砲町5番16号 広島サンケイビル9F ☎082-222-0234（代表）
福岡営業所：〒812 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多偕成ビル10階 ☎092-473-8034（代表）

修理のお問合せは
フリーダイヤル 0120-464-007
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間/10：00～17：00 月曜～金曜、（祝祭日はのぞきます）

PS0184A

ALINCO

6m FM TRANSCEIVER

DR-M06SX

HF FM TRANSCEIVER

DR-M03SX

取扱説明書

ALINCO トランシーバーをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させて効果的にご使用いただくため、この取扱説明書をご使用前に最後までお読みください。また、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。ご使用中の不明な点や不具合が生じました時にお役に立ちます。

アルインコ電子株式会社

本機は日本国内専用モデルですので、外国では使用出来ません。
この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

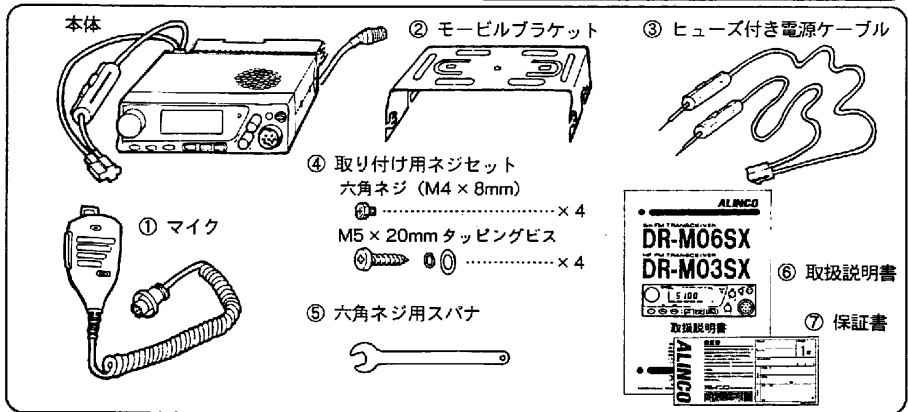
1 ご使用の前に必ずお読みください

■本機は次の大きな特徴を持つ無線機です。

- 100チャンネル分のメモリー容量のあるEEP-ROMを標準装備とし、飛躍的に使いやすくなりました。
- 50波のトーンエンコーダーも標準装備され(デコーダーはオプション)、グループ交信を更に楽しく行うことができるようになりました。

■本取扱説明書に記載されている場合を除き、ケースなどを外し、内部にふれることはさけてください。内部に手をふれると感電、故障の原因になることがあります。
■直射日光に当たる所、暖房器具など発熱物の近くはさけてください。
■花瓶、化粧品など水の入ったものは、セットの上に置かないでください。また、湿度の高い所はさけてください。
■放熱をよくするため、壁から10cm以上離してください。
■ほこり、振動の少ない安定した場所にセッティングしてください。
■本セットはDC(直流)13.8V(−)接地用です。
■DC(直流)安定化電源を使用する場合、ぬれた手でAC(交流)電源のプラグを抜き差ししますと、感電するおそれがありますので、絶対にしないでください。
■チューナー、テレビなど、他の機器に影響を与えるようなときは、距離を離して設置してください。
■電源コードを無理に引き抜いたり、折りまげたりしないでください。また、継ぎ足しすると、通電しなくなったり、ショートのおそれがありますのでしないでください。
■万一、煙が出たり、変な臭いがする場合は、電源スイッチをすばやく切り、電源コードを抜いてください。速やかに購入店または最寄りの当社サービス窓口へご連絡ください。
■湿度の高い所や、冷たい所から急に暖かい所へ移動しますと、製品に露がつく場合があります。露がつくと製品の動作に悪影響を与え、故障の原因になりますので、よく乾燥させ、露をよく取り除いてからご使用ください。

付属品

① マイク……×1
② モービルブラケット……×1
③ ヒューズ付き電源ケーブル……×1
④ 取り付け用ビス……×1セット
⑤ 六角ネジ用スパナ……×1
⑥ 取扱説明書……×1
⑦ 保証書……×1

運用時のご注意

■電波を発射するまえに
ハムバンド近くでは、多くの業務無線局が運用されています。これらの無線局の近くで電波を発射するとアマチュア無線局が電波法令を満足していても、思わぬ電波障害を起こすことがありますので、移動運用などでは、充分にご注意ください。特に次のような場所での運用は原則として行わず、必要な場合は管理者の承認を得るようにしましょう。①航空機内②空港敷地内③新幹線車両内④業務無線局及びそれらの中継局周辺。

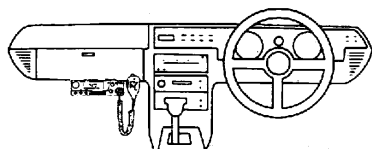
もくじ

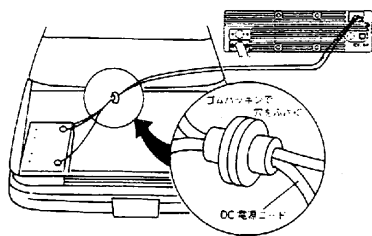
この説明書はDR-M06SXをモデルに行っておりますが周波数以外はDR-M03SXも同様です。

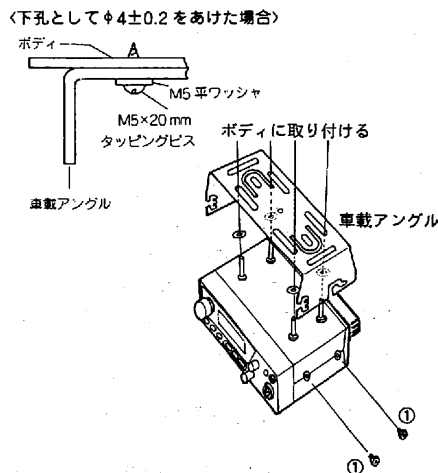
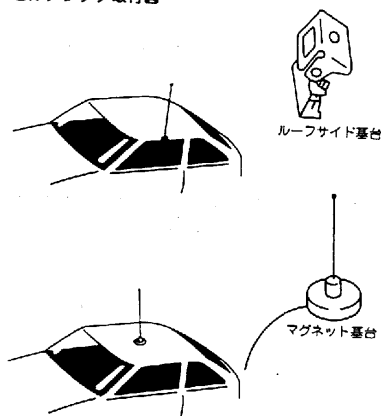
2 電源のつなぎ方と設置方法

モービル（自動車）で運用する場合

①取付場所

ご使用の車種により、車内レイアウトは異なりますが、操作性、安全運転の面から最適と思われる場所を選ぶようにしてください。とくに、ひざが本機にあたらないような場所を選んでください。また、直接振動が伝わる場所や、カーヒーターの吹き出し口など車内温度が上昇するような場所は避けてください。

②電源の接続方法

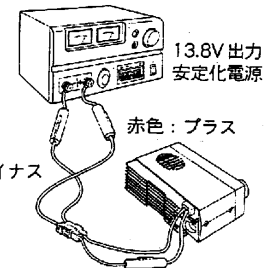
本機はDC（直流）13.8V用です。トラックなどの24Vバッテリーの車には直接接続することができません。また、[－]（マイナス）接地車でご使用ください。まれに[＋]（プラス）接地車がありますので、そのような場合は最寄りの販売店または当社サービス窓口でご相談ください。なお、車載でご利用の場合はバッテリーに直接接続してください。シガープラグを使用されますと、電源の供給が不安定になることがありますので、本機の性能が保持されません。

③車載アングルの取付方法

右の図のように車載アングルを車に取り付けてください。まず、4本の六角ネジを本体に軽く取り付けます。六角ネジ①を車載アングルの溝に先に入れ、押し上げながら後方に押し込んでください。同時に六角ネジ②を車載アングルの前の溝に入れてください。車載アングルの前の溝は3つありますから、本機を操作しやすい角度にセットしてください。最後に、本機を付属のスパナで車載アングルにしっかりと固定してください。

モービルアンテナ取付図

④モービルアンテナの取付方法

アンテナに接続する同軸ケーブルと高周波コネクタは50Ωのものをお使いください。また、モービルアンテナは、車のボディにアンテナを固定するための基台を設置する必要があります。走行中に脱落することのないように、確実に取り付けてください。

固定（ご家庭）で運用する場合

①電源について

ご家庭でご使用になるなど、固定局として本機をご使用になる場合、直流安定化電源が必要となります。直流安定化電源の容量は、5A以上の電流容量のある電源をご使用ください。当社の電源を使用されることをおすすめします。本機と安定化電源との接続は、赤色の線が電源の[＋]（プラス）、黒色の線が電源の[－]（マイナス）に接続します。接続には付属の電源用リード線（DCコード）で配線してください。

②固定用アンテナについて

アンテナは交信するうえにおいて、とても重要な要素となります。性能のよいアンテナをお選びください。市販されているアンテナには、無指向性（すべての方向に電波の出入りがある）のグランドプレーンアンテナや、指向性（ある方向にのみ電波の出入りがある）のある八木アンテナなどがありますので、運用目的や設置場所に応じてお選びください。また、同軸ケーブルはできるだけ太いもの（5D-2V以上）をお使いになり、なるべく短くご使用ください。

禁止事項

電源の接続方法：シガープラグからの電源供給はおやめください。電源供給が不安定となり性能が維持されないことがあります。

本体の改造：本体の改造はおやめください。無理な改造が原因とおもわれる故障等については保証期間内であっても保証がきかなくなるうえに修理をお断わりする場合もあります。

3 各部の名称とその機能！

［フロントパネル］

メインダイヤル
送信・受信の周波数を変更したり、メモリーの操作をしたときにはそのメモリーチャンネルを変更することができます。また、オフセット周波数(送信と受信の周波数を別にして運用)、トーン周波数などの変更にも使用します。

送信・受信ランプ
マイクのPTTキーを押して､送信状態になるとこのランプが赤く点灯します。また、電波を受信すると緑色に点灯します。

ボリュームつまみ
受信中の信号の音を調節するツマミ。右に回すと音が大きくなり、左に回すと音は小さくなります。

MHz・H／Lキー
周波数を1MHz単位で変更することができます。
Fキーを押して、表示部にFUNCが点灯中にこのキーを押すと、送信出力の切り替え（ハイパワーとローパワー）ができます。

電源スイッチ
電源をONしたりOFFしたりするスイッチです。

TX/RX　VOL　MHz　H/L　POWER　SQL
F　REV　T.SQ　TOT SHIFT　VFO/M MW　CALL CH.SP

ファンクション・MONIキー
ファンクション機能を動作させるためのキーです。このキーと他のキーの組合せにより、各種の機能を発揮します。さらにこのキーを1秒以上押し続けると、モニター機能が動作して、スケルチ機能が解除され雑音が入る受信状態となります。

スケルチつまみ
受信中に信号が入ってこないときの雑音をカットするための調節つまみです。何も信号を受信していない状態で雑音がなくなる点にセットします。

マイクコネクタ
付属のマイクを接続します。

REV・PRIキー
送信周波数と受信周波数を別の周波数に設定したときに、送信周波数と受信周波数を切り替えるためのキーです。さらにFキーを押して、表示部にFUNCを点灯させた状態でこのキーを押すと、プライオリティ受信動作のON／OFFになります。

T.SQ・LOCKキー
トーンスケルチ機能を動作させるためのキーです。Fを押して、表示部にFUNCが点灯中にこのキーを押すと、キーロック機能のON／OFFとなります。

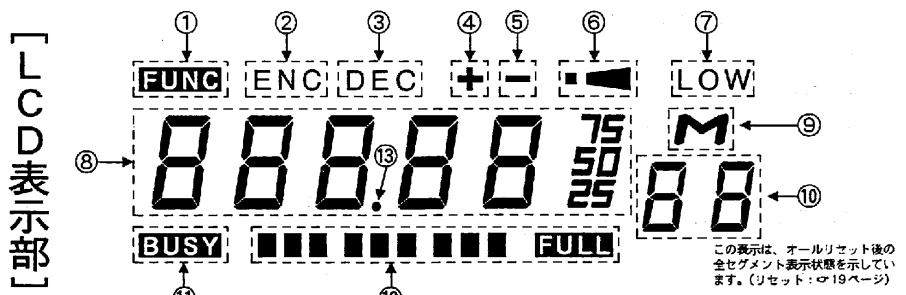
VFO／M・MWキー
VFOモードとメモリーモードとを切り替えます。Fを押して、表示部にFUNCが点灯中にこのキーを押すと､メモリーライト(メモリーの書き込み)とメモリークリア(メモリー消去)機能になります。

CALL・CH：SPキー
このキーを押すと、コールチャンネルを呼び出すことができます。Fを押して、表示部にFUNCが点灯中にこのキーを押すと、チャンネルステップ周波数の設定を行うことができます。

TOT・SHIFTキー
連続送信タイマーの設定を行うことができます。
Fを押し､表示部にFUNCが点灯中にこのキーを押すと､周波数のシフト方向(＋か－)とオフセット周波数を設定できます。

［LCD表示部］

①FUNC　②ENC　③DEC　④＋　⑤－　⑥　⑦LOW　⑧888.88 75 50 25　⑨M　⑩88　⑪BUSY　⑫　⑬　FULL

この表示は、オールリセット後の全セグメント表示状態を示しています。（リセット：☞19ページ）

①FUNC：ファンクションキーを押すと、5秒間点灯します。点灯中に他のキーを押すと､ファンクション機能が動作します。
②ENC：トーンエンコーダを設定したときに点灯します。
③DEC：トーンデコーダを設定したときに点灯します。（オプション装着時のみ）
④＋：オフセット周波数のシフト方向が＋を示します。
⑤－：オフセット周波数のシフト方向が－を示します。
⑥常時消灯
⑦LOW：送信出力がローパワーの時に点灯します。
⑧送・受信周波数、その他各種設定値を表示します。
⑨M：メモリーモード、コールモードを設定したときに点灯します。
⑩メモリーチャンネル、コールモード設定時に点灯します。キーロック中は「FL」。プライオリティ中は「P」が点灯します。
⑪BUSY：信号を受信したときに点灯します。
⑫受信中の信号の強さを表示します。
⑬・：送信周波数、受信周波数、オフセット周波数のMHzでの区切り。トーン周波数のHzの区切りを表わします。また、点滅時はスキャン動作中を表わします。

［マイクロホン］

DOWNキー
送信周波数、受信周波数、メモリーチャンネル、オフセット周波数、トーン周波数、チャンネルステップなどを下げるためのキーです。

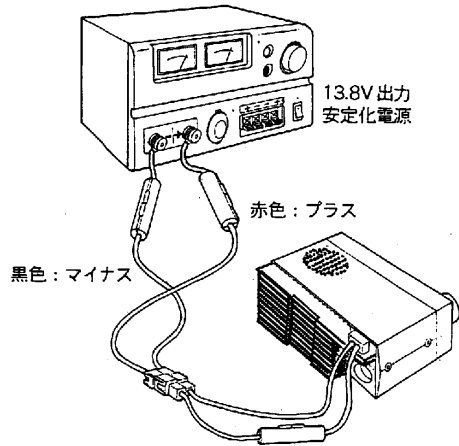
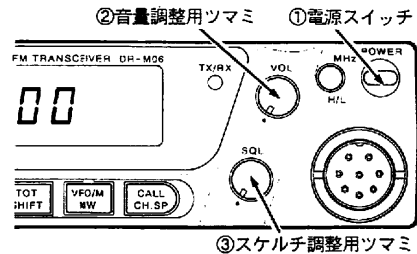
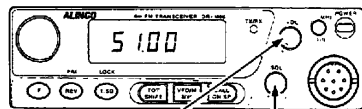
UPキー
送信周波数、受信周波数、メモリーチャンネル、オフセット周波数、トーン周波数、チャンネルステップなどを上げるためのキーです。

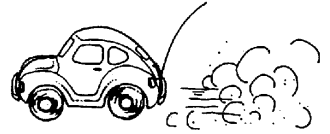
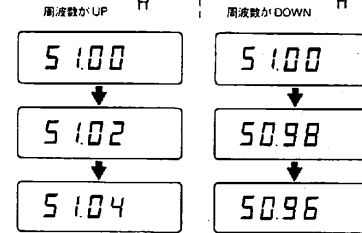
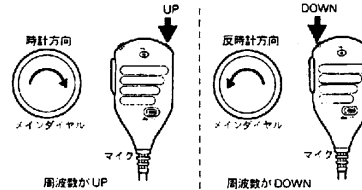
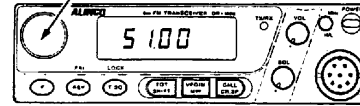
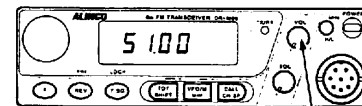
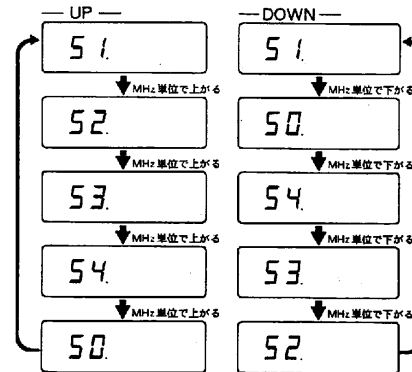
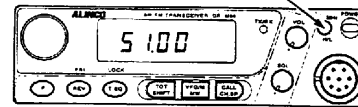
PTTキー
このキーを押すと送信状態となります。

UP／DOWNロックスイッチ
このスイッチをONすることでマイクのUP／DOWNキーの機能は停止します。誤動作を防止させる時に使用してください。

④ 基本操作

この基本操作だけで簡単に通話はできる！

1.受信から始めよう！

(1) 電源ケーブルが確実に接続されているかどうか確認してください。赤いケーブルの方が＋に、黒いケーブルの方が－に接続されているかどうかを確認します。固定で使用する場合、電源の電圧は13.8Vで、5A以上の容量のある電源が必要です。車のバッテリーであれば充分です。

(2) ①のスイッチを押して電源を入れます。②のツマミを少し右に回しておきます。この②のツマミは音量調整用のボリュームです。右に回すと音量が大きくなります。③のツマミはスケルチ調整用のツマミです。このツマミは信号が入ってこないときの雑音をカットするためのものです。このツマミを左に回すと表示部にBUSYと表示され、「ザー」と雑音が聞こえてきます。この③のツマミを右に回していくと、雑音が消えるポイントがありますので、このツマミはこのポイントにセットします（BUSY表示も消えます）。あまり右に回しすぎると、信号を受信しても音として出てこなくなります。

(3) ④のメインダイヤルかマイクのUPキーあるいはDOWNキーの操作により、希望周波数を決めることができます。メインダイヤルで決める場合は、右に回すと周波数が上がっていき、左へ回すと周波数は下がっていきます。また、マイクのUPキーを押すと、同じように周波数は上がっていき、DOWNキーを押すと周波数は下がっていきます。
《注意》マイクのUPキー、DOWNキーを0.5秒以上3秒以内押し続けるとスキャンを開始します（☞12ページのスキャンの項を参照してください）。

(4) なお、⑤のMHzキーを押してから上記のような操作をすると、1MHz単位で周波数を変更することができます。この時、周波数の表示は、100kHz以下が消えます。この機能の解除は、もう一度MHzキーを押すか、PTTキーを押します。

(5) ②のツマミで音量を最適な音量にします。右へ回すと音量は大きくなり、左へ回すと音量は小さくなります。信号を受信すると、TX／RXのランプが緑色に点灯し、液晶表示のBUSYの表示が出て受信状態であることを知らせます。また、信号の強さに応じてバーグラフのメーターが表示されます。

2.送信をしてみる！

(1) まず電源の電流容量が充分であるかどうか確認してください。5A以上の電流容量が必要です。なお、自動車で使用する場合は自動車のバッテリーより直接接続してください。

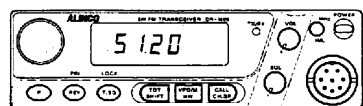
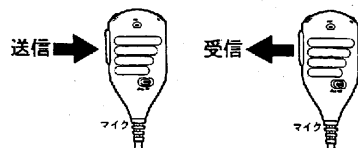
(2) アンテナケーブルのコネクタにアンテナからのケーブルが確実に接続されているかどうか確認してください。なお、アンテナは市販の50MHz帯用のもので、アンテナインピーダンスが50Ωのもの、耐電力が10W以上のものです。自動車で運用する場合、市販のアンテナならばほとんどの製品がこの条件を満たしています。

(3) 送信したい周波数を受信のときと同じように決めます。

Fキーを0.5秒以上押し続けるか、SQLツマミを左に回す。

(4) その周波数で送信しても、他の局の通信に妨害を与えないかを確認します。スケルチつまみを左側に完全に回し切るか、Fキーを0.5秒以上押し続けてください。

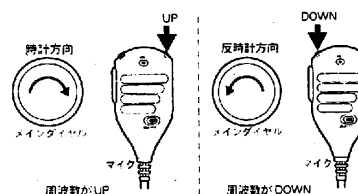
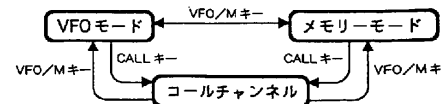
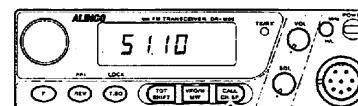
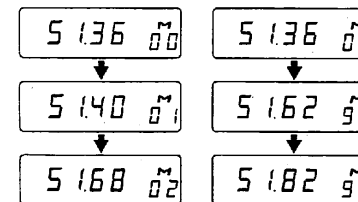
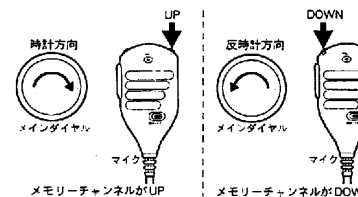
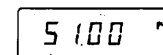
(5) 妨害を与えないようであれば、マイクのPTTキーを押してください。この時、TX/RX（送信ランプ）が赤く点灯して送信状態であることを知らせます。通話をする時はそのままマイクに向かって話してください。

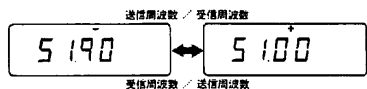
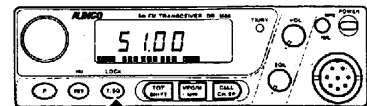
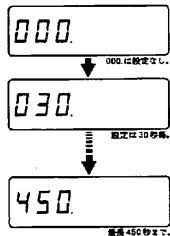
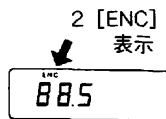
(6) PTTキーを離すと、受信状態に戻ります。

3.動作モード

(1) VFOモード：このモードでは表示部には周波数のみが表示されます。このモードのときはメインダイヤルやマイクのUP・DOWNキーで簡単に周波数を変更することができます。周波数は、チャンネルステップ毎の変更になります（☞18ページのチャンネルステップ変更の項を参照してください）。

(2) メモリーモード：VFOモードでVFO／Mキーを押すと、Mとメモリーナンバーが表示されます。これがメモリーモードで、あらかじめ記憶させておいた周波数を呼び出すことができます（☞17ページのメモリーの項を参照してください）。メモリーナンバーを変えたいときは、メインダイヤルかマイクのUP・DOWNキーを使用します。メモリーの書き込まれていないチャンネルではメモリーナンバー上のMが点滅します。メモリーできるチャンネル数は全部で100チャンネルです。

(3) コールモード：VFOまたはメモリーモードで、CALLキーを押すと、コールチャンネル（Cチャンネル）を呼び出すことができます。VFOモードあるいはメモリーモードに戻りたいときは再度CALLキーを押すと戻ります。メモリークリア（メモリーの項参照）でCチャンネルを消去したときはMが点滅して、VFOデータが表示されます。

ご注意 VFOモード、メモリーモードとコールチャンネルの関係は下の図の通りです。

5 応用操作

これでこの無線機はもっと楽しくなる！

1.リバース

送信周波数と受信周波数が入れ替わります。

REVキーを押すことでこの操作ができます。元に戻すときには再度REVキーを押すことで戻ります（☞16ページのオフセット設定の項を参照してください）。

2.TOT（タイム・アウト・タイマー）設定

送信時間を制限するタイマー機能です。

①TOTキーを押します。

②表示部には000と表示されます。（この時は無制限です）

③メインダイヤルあるいはマイクのUP・DOWNキーを使用して時間を設定します。時間は0〜450秒まで30秒毎に設定できます。

④時間を設定したら、VFO／Mキーかマイクの PTTキーを押してください。これでTOT設定は終了です。

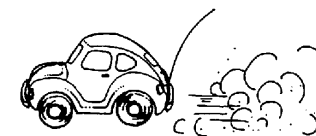
⑤送信中、設定した時間の5秒前になると、BEEP音が鳴り、設定した時間になるとOFF表示が出て、自動的に送信が停止します。自動停止後PTTキーを離すと元の表示に戻ります。

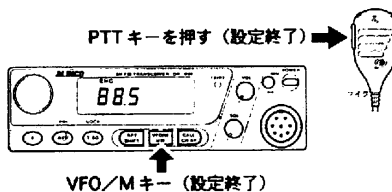
3.トーンスケルチ設定

仲間とのQSOにあると便利な機能です。

トーンエンコーダとトーンデコーダの機能を動作させるための操作です。なお、トーンデコーダ機能はオプションを装着時のみ設定できる機能です。

①T.SQキーを押すとトーンスケルチ機能になります（ENCが表示される）。DEC表示はオプション装着時のみ表示されます。

②ENCあるいはENC／DECは表示中はトーン周波数が表示されます。

トーン周波数一覧表（単位：Hz）

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7	82.5	85.4	88.5
91.5	94.8	97.4	100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2	151.4	156.7	159.8
162.2	165.5	167.9	171.3	173.8	177.3	179.9	183.5	186.2
189.9	192.8	196.6	199.5	203.5	206.5	210.7	218.1	225.7
229.1	233.6	241.8	250.3	254.1				

③トーン周波数の変更はメインダイヤルかマイクのUP・DOWNキーを使用して選択します。トーン周波数は、全部で50種類です。選択できる周波数は左記の周波数です。

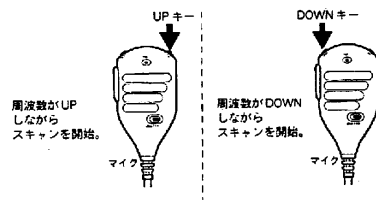
④トーン周波数を選択したら、VFO／Mキーか PTTキーを押すことにより設定は終了します。

（注意）ENCのみ表示中はTOTタイマー動作はしません。なお、ENCまたはENC／DEC表示中に送信しますと、周波数の後にEEが表示されます。

UP/DOWNキーを0.5秒以上3秒以内押す

5 1.00
5 1.26
5 4.00
50.00

4.スキャン機能

信号が出ている周波数を探したり、逆に空きチャンネルを探すのに便利な機能です。

（1）VFOスキャン：この機能を動作させると、受信信号がなければすぐに次のチャンネルに移り、受信信号があると、そのチャンネルで5秒間チャンネル移動を停止して、5秒後に次のチャンネルに移動します。

VFOモードでは全周波数範囲をチャンネルステップ（チャンネルステップの項参照）単位でスキャンします。

①VFOモードでマイクのUPキーあるいはDOWNキーを0.5秒以上、3秒以内押していると、スキャン機能が動作します。なお、UPキーを押した場合は周波数の高い方へスキャンしますし、DOWNキーを押した場合は周波数の低い方へスキャンします。

②スキャン中の周波数を変更することができます。これはメインダイヤルとMHzキーで変更できます。また、メインダイヤルの方向により、スキャン方向も変更することができます。

③スキャンの解除は、マイクのUP・DOWNキーかPTTキー、あるいはVFO／Mキーのいずれかを押すことにより解除することができます。

VFO／Mキー（メモリーモードへ）

UP／DOWNキーを1秒以上3秒以内押す

(2) メモリースキャン：メモリーモードにおいて、記憶されているメモリーのみをスキャンする機能です。

①VFO／Mキーを押してメモリーモードにします。

②マイクのUPキーかあるいはDOWNキーを1～3秒間押し続けます。

③メモリースキャンが開始して、記憶されているチャンネルが次々と受信されていきます。それらのチャンネルの中で受信信号が入ると5秒間そのチャンネルでスキャンを停止します。5秒後に次のチャンネルに移動します。

④スキャン中のメモリーチャンネルの変更は、メインダイヤルを回すことにより、スキャンチャンネルとスキャン方向を変更することができます。

⑤スキャンの解除はマイクのUPキーかDOWNキー、あるいはPTTキー、VFO／Mキーのいずれかを押すことにより、この機能は停止します。

⑥ ファンクション機能

この機能を使いこなせば、この無線機は最高機能を発揮する！

ファンクション機能とは、通常の機能以上の機能を発揮させることにより、運用が非常に楽になる機能です。

ファンクション機能を動作させるためには、まずFキーを押します。Fキーを押すと、表示部に5秒間FUNCと表示されます。この表示中に各キーを押すことにより、次の9項目の動作をさせることができます。なお、FUNCの表示と同時にメモリーナンバーが表示されます。これらの表示はメインダイヤルあるいはマイクのUP・DOWNキーを操作することにより、さらに5秒間延長されます。

1.プライオリティ

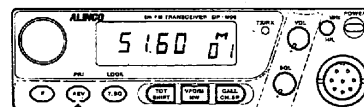
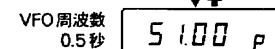
各自が重点的に受信したい周波数を優先的に受信します

プライオリティ受信中は5秒と0.5秒の受信を交互に繰り返します。VFO受信中、表示部に「P」が表示されます。0.5秒の受信モード中に受信信号が入ると、2秒間の受信延長がなされます。

(1) VFOプライオリティ

①VFOモードでFUNCキーを押します。

②PRIキーを押すと、VFOモード5秒、メモリーモード0.5秒で交互に受信します。

※メモリーに周波数が登録されている必要があります（☞17ページを参照してください)。

(2) メモリープライオリティ

①メモリーモードでFUNCキーを押します。

②PRIキーを押すと、メモリーモード5秒、VFOモード0.5秒で交互に交信します。

■VFOプライオリティ

■メモリープライオリティ

メモリーチャンネル周波数5秒

5 1.60

VFO周波数0.5秒

5 1.00 P

■コールプライオリティ

(3) コールプライオリティ

①コールモードでFUNCキーを押します。

②PRIキーを押すと、コールモード5秒、VFOモードまたはメモリー0.5秒で交互に受信します。

※この時のVFOモードとメモリーモードの選択はコールモードにする前のモードとなります。

〔プライオリティの解除〕

プライオリティ動作中に再びFUNCキーを押し、その後でPRIキーを押すことでプライオリティ動作を解除することができます。

または、マイクのPTTキーを押すことによっても解除することができます。この時PTTを押した周波数側で解除されます。

2.キーロック

誤動作の防止。

①FUNCキーを押します。

②LOCKキーを押すと、メモリーNo.表示位置に「FL」と表示され、キーロック状態となります。

キーロック中は次のキー以外は受け付けません。

■PTT（送信）

■FUNC＋LOCK（キーロックの解除）

■FUNC＋LOW（送信出力の切り替え）

■FUNC（MONIキー機能）

④キーロックは、FUNCキーを押してからLOCKキーを押すことで、解除することができます。

3.オフセット設定

送信周波数と受信周波数を別に設定することができます。

①FUNCキーを押します。

②SHIFTキーを押すと、シフトする方向が切り替わります。

〔＋シフト〕受信周波数に対して設定した周波数幅だけプラスの周波数で送信します。

〔－シフト〕受信周波数に対して設定した周波数幅だけマイナスの周波数で送信します。

③〔＋シフト〕、〔－シフト〕が表示されているときの周波数表示はオフセット周波数を表示しています。このオフセット周波数の幅を変更するときは、メインダイヤルまたはマイクのUPキーまたはDOWNキーにより変更することができます。ただし、この周波数幅はアマチュアバンド周波数幅を越えるような設定では運用することができません。

④VFO／MキーかマイクのPTTキーを押すことで、設定は終了します。

リアパネル端子の電気的定格

4.メモリーライト・メモリークリア

メモリーチャンネルに周波数を記憶させたり、記憶している周波数を消去したりします。

(1) VFOモード　＊VFOモードではメモリーは消去できません。

①VFOモードでFUNCキーを押します。

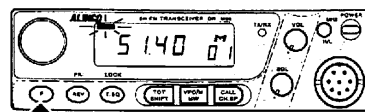
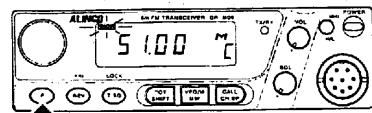
②表示部に（FUNC）が点灯中にメインダイヤルかマイクのUP・DOWNキーでメモリーチャンネルを選びます。なお、(M) が点灯のチャンネルを選ぶと、データが上書きされて、古いデータは消えてしまいます。

③MWキーを押すとデータは記憶されます。記憶することができるデータは次のものです。

・周波数
・オフセット周波数とそのシフト方向
・トーン周波数とトーンエンコーダ／トーンデコーダの設定

(2) メモリーモード　＊「M」が点滅中に操作するとメモリーライトとなり、点灯中に操作するとメモリークリアになります。

①メモリーモードでFUNCを押します。「FUNC」が点灯中にメインダイヤルかマイクのUP／DOWNキーでメモリーチャンネルを選ぶことができます。

②MWキーを押すと、データの記憶または消去がなされます。

(3) コールモード　＊「M」点滅中に操作するとコールチャンネルの記憶、点灯中に操作するとコールチャンネルを消去することができます。

①コールモードでFUNCキーを押します。コールモードでは「FUNC」が点灯中にメインダイヤルあるいはマイクのUP／DOWNキーによるチャンネル変更はできません。

②MWキーを押すとデータの記憶または消去がなされます。

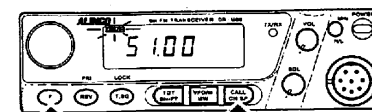
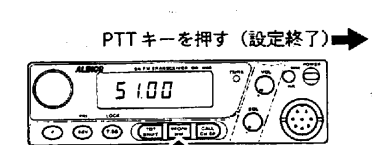
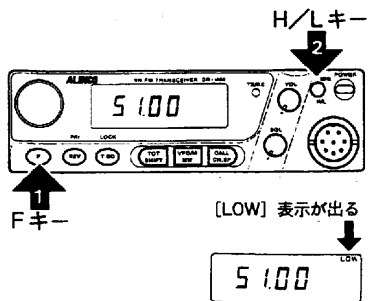
5.チャンネルステップの設定

(チャンネルとチャンネルとの周波数間隔を設定することができます。周波数、オフセット周波数、VFOスキャンのときの単位となります)

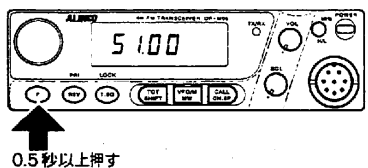
①FUNCキーを押します。

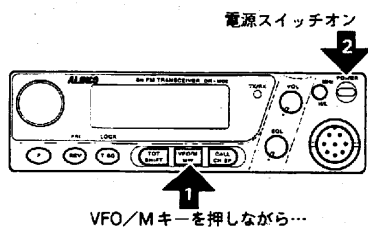
②「FUNC」点灯中にCH.SPキーを押すと、チャンネルステップ設定モードになります。

③メインダイヤルかマイクのUP／DOWNキーを押してチャンネルステップ周波数を選んでください。ステップ周波数は5KHz・10KHz・12.5KHz・15KHz・20KHz・25KHzのなかから選んでください。

④VFO／Mキーかマイクのpttキーを押すことで、設定は終了です。

6.送信出力の切り替え

送信出力を10Wと1Wの2段階に切り替えることができます。

①FUNCキーを押します。
②「FUNC」が点灯中にH／Lキーを押すと送信出力が切り替わります。LOWパワー時には表示部に「LOW」が点灯します。それ以外の時は、ハイパワーとなります。

7.スケルチオフ機能

(スケルチつまみを操作しなくても、強制的にスケルチをオープンした状態にすることができます)
①FUNCキーを0.5秒以上押すと、MONIキーとして働き、押している間はスケルチ状態が解除されます。

8.Beep音のON／OFF

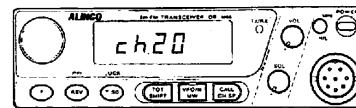
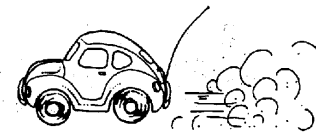
(各キーを押したときなどに鳴る音を切ったり入れたりすることができます)
①VFO／Mキーを押しながら電源を入れます。
②［①］の動作を繰り返すことにより、Beep音のON／OFFが切り替わります。

工場出荷時状態

	DR-M06SX	DR-M03SX
VFOの周波数	51.00MHz	29.00MHz
CALL周波数	51.00MHz	29.00MHz
メモリーチャンネル	OFF	
シフト方向	OFF	
オフセット周波数	0.5MHz	0.1MHz
トーン設定	OFF	

	DR-M06SX ｜ DR-M03SX
トーン周波数	88.5Hz
チャンネルステップ	20kHz
送信出力	HI POWER
キーロック	OFF
ビープ音	ON
TOT	0

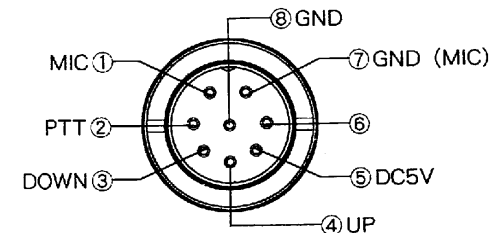
9.リセット (初期化)

(通常は操作することがありません。この操作をすることで、今まで記憶させていたメモリーデータは全て消えてしまいます)
①FUNCキーを押しながら電源を入れます。
②メモリーしたデータは全て消去され、工場出荷時の状態になります。

チャンネル表示例

※チャンネル表示：TOT／SHIFTキーを押しながら電源を入れます。この時、周波数表示からch表示になり、メモリーに入っているチャンネル周波数と同期します。

DR－M03SXのみ

◎コールチャンネルについて
本機のコールチャンネルの初期値は29.0MHzですが29MHz帯のFMでは29.3MHzがよく使用されています。必要に応じてメモリーch同様、書き換えてご使用下さい。
◎ナローFM対応方法
本体の上カバーを開けると中央部手前に「DEV」と印刷された位置にVRがあります。このVRを左へ回すとナロー変調に調整できます。

マイクロホン端子接続図 (セットの正面より見た図)

アフターサービス

1．**保証書**：保証書は必ず所定事項（ご購入店名、ご購入日）の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
2．**保証期間**：お買い上げ日より1年間です。正常なご使用状態で、この期間内に万一故障を生じた場合は、お手数ですが製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。保証書の規定に従って修理します。
3．保証期間経過後の修理については、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。
4．アフターサービスについては、ご不明な点はお買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談ください。

故障とお考えになる前に・・・

受信

症　状	原　因	処　置
電源スイッチを入れてもディスプレーには何も表示されない。	1．電源の（＋）端子と（－）端子の接続が逆になっていませんか？ 2．ヒューズが切れていませんか？	1．DC電源コード（付属品）の赤色線を（＋）側に、黒色線を（－）側に正しく接続してください。 2．ヒューズが切れた原因となった修理をしてから、指定容量のヒューズと交換してください。（☞16ページ）
表示が暗い。	電源電圧が低下していませんか？	電源電圧はDC(直流)13.8Vを確保してください。
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	1．VOLのつまみを反時計方向に絞り過ぎていませんか？ 2．スケルチつまみが時計方向にいっぱい回し過ぎていませんか？ 3．トーンスケルチが動作していませんか？ 4．外部スピーカーが接続されていませんか？ 5．マイクロホンのPTTスイッチが押されたままで、送信状態になっていませんか？	1．VOLつまみを適当な音量になるようにセットしてください。 2．SQLつまみを反時計方向に回してください。 3．トーンスケルチをOFFにしてください。 4．本体内部スピーカーを使用する時は、外部スピーカー端子からジャックを抜いてください。 5．すみやかにPTTスイッチをOFFにしてください。
SCANキーを押してもスキャンしない。	SQLつまみの調整などがスキャン動作をするための条件になっていないのでは？	本書スキャン動作の項をご参照ください。（☞12ページ）

送信

症　状	原　因	処　置
出力が出ない。 (電波が出ない)	1．マイクロホン端子の差込みが不完全ではありませんか？ 2．アンテナの接続不良ではありませんか？	1．マイクロホン端子に確実にコネクタを差し込んでください。 2．アンテナを確実にアンテナコネクタに差し込んでください。

8 申請書の書き方

本機によりアマチュア無線局を申請する場合、市販の申請用紙に下記の事項を間違いなく記載の上、申請してください。＊印の箇所は下記の表より、それぞれ該当する事項を記入してください。本機を使用して技術基準適合証明を受ける場合は、工事設計書と技適証明発行願の送信機の欄に技術基準適合証明番号を記載すれば、送信機系統図などの記載を省略することができます。この場合、記載事項は下表の＊1・＊2・＊3・＊4のみを記入します。

無線局事項書及び工事設計書（裏面）

希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式

周波数帯	空中線電力	電波の型式
＊2	＊3	F3

工事設計	第1送信機
変更の種別	取替　増設　撤去　変更
技術基準適合証明番号	＊1
発射可能な電波の型式、周波数の範囲	
変調の方式	
定格出力	W
終段管　名称個数	
終段管　電圧	V
送信空中線の型式	＊4
その他の工事設計	電波法第3章に規定する

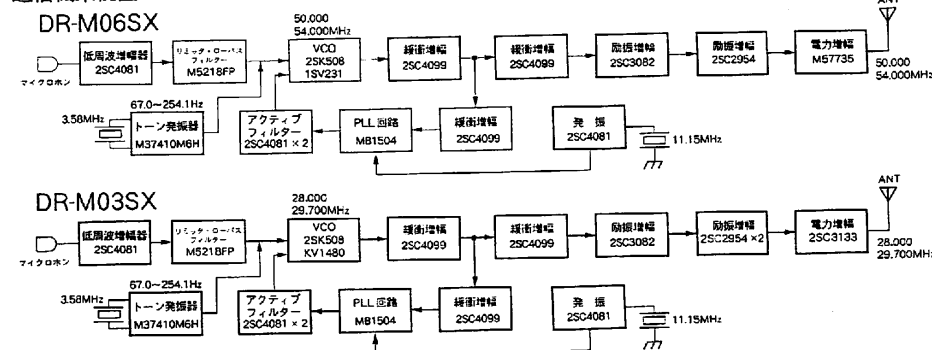
技適証明書発行願

2．送信機

送信機番号	技適証明送信機に貼られている「技適証明ラベル」の記号番号
第1送信機	＊1
第2送信機	
第3送信機	
第4送信機	
第5送信機	
第6送信機	
第7送信機	
第8送信機	
第9送信機	
第10送信機	
送信機の台数	台

個所＼モデル	DR-M06SX	DR-M03SX
＊1	KV－－－－ (＊)	KH－－－－ (＊)
＊2	50M	28M
＊3	10	10
＊4	(使用する空中線の型式を記入して下さい)	(使用する空中線の型式を記入して下さい)

＊1は、トランシーバー本体に貼られている「技術基準適合証明ラベル」の番号をご記入ください。　（＊：個別の技術基準適合証明番号）

送信機系統図

9 オプション

EJ-20U (トーンスケルチユニット) ￥4,800

本ユニットを取り付けることにより、トーン機能が強化されます。通常運用時にはトーンエンコーダーとして送信のみ可能であったものが、トーンデコーダーとしても運用可能となります。運用可能なトーン周波数は、通常時とかわらず50波のなかから自由に選択できます。